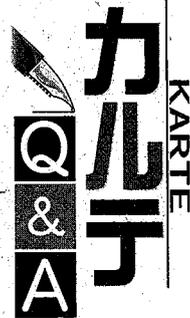


心筋梗塞や心臓弁膜症、心筋症、高血圧、貧血、内分泌疾患などさまざまな原因で発症する心不全は、生命に危険を及ぼします。急性の場合は直ちに入院・手術が必要で、その後も治療を続けることが大切になります。治療法について専門医に聞きました。

心不全 (治療・リハビリ)



蓮池俊明医師

急性心不全は突然、呼吸困難や胸の激痛に襲われ、一刻も早い治療が求められます。血管が詰まったり、硬くなっ

て流れやすくなります。バイパス手術もあります。詰まった血管の代わりに、別の血管で迂回路をつくる治療法です。内胸、腕、脚の血管を移植します。治療箇所が多い場合はバイパスの方が効果も高くなります。ただバルーン拡張術に比べて準備に時間を要し、重篤の

生じたりするので、利尿剤で排尿を促し水分を減らしていきます。高血圧も心臓の負担を増やします。ACE阻害薬やARB、ARNIといった薬は血圧を下げるのに重要です。またベータ遮断薬は、交感神経から心臓の働きを促進する信号をブロックすることで心臓を休める効果

があります。慢性心不全も薬物療法で対処します。リハビリも大切です。治療中は運動不足になりがちなので、入院中から歩行や軽いトレーニングを始め、社会復帰の準備をします。またうつ血の原因となる水分、塩分を取り過ぎないよう注意も必要です。心不全の治療は心臓の負担を軽減しながら、じっくり行ってください。

(兵庫県医師会、蓮池俊明 神戸市兵庫区、蓮池内科診療所 院長)

◇第1、3、4日曜に掲載します。

手術・薬で心臓の負担軽減を

たりして血流が悪化する心筋梗塞や狭心症の原因ならば、バルーン(風船)拡張術を行います。太もものつけ根からカテーテル(細い管)を体内に入れ、心臓の表面を流れる冠動脈まで持っていくます。詰まった部分でバルーンを膨らませて広げ、血液

急性患者には向いていません。このほか、心臓機能を機械に頼る人工心肺を使用するケースもあります。手術後や他の原因の心不全は病状に応じて薬物療法を行います。体内の水分が多いと肺に水がたまったり、脚にむくみが

があります。慢性心不全も薬物療法で対処します。リハビリも大切です。治療中は運動不足になりがちなので、入院中から歩行や軽いトレーニングを始め、社会復帰の準備をします。またうつ血の原因となる水分、塩分を取り過ぎないよ

う注意も必要です。心不全の治療は心臓の負担を軽減しながら、じっくり行ってください。